

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

第五福竜丸とチェルノブイリ

関屋綾子

昨年六月九日、展示館開設一〇周年記念集会を持って後間もなく、ウィーンに於て開催された国連のNGO地域会議に出席する機会を与えられた。これは七月から八月にかけてパリに於て開催を予定されている「軍縮と開発の關係に関する国際会議」に先立つ準備段階として開かれたもので、「一九八〇年代地球の安全保障——紛争解決並びに平和維持と地域軍縮に於る国連の役割」が主たる内容であったが、欠席のハンガリー代表に代りソ連平和委員会のヴォロンコフ博士が出席、突然すら自らと自身自身の言葉としてチェルノブイリ問題を語った。自国の失敗に対する真実味ある言葉であった。核の問題となると俄然黙っては居られない思ひになった。広島・長崎の国から来て「日本の被爆者のかたがたの為に、ヨーロッパの出席者のためにも、また第五福竜丸のためにも——」との思いが胸一ぱいになり思わず手をあげて発言を求めた。

思いもかけず急に発言する勇気が湧いて来たのは、二つの要素があったと思う。一つはヴォロンコフ氏の発言内容が、実に素直で、いわゆる官制の言葉でなかったこと。もう一つは、自身が日頃核の問題を自分自身の問題として勉強しつづけて、わずかならでもはつきりとした意識を持っていた事と、六月九日の記念集会に講演させていただいたために、内容の整理が自分なりに出来ていたためすぐ対応し得たことによると思う。

な事をする者はいない筈です。人類の歴史は新しい曲り角をまわった。即ち戦争のないところで人は核の被害のため死ななければならぬ時代になって来たのです。兵器でなくても核の被害がいかにおそろしいものかは、広島・長崎はさておき、一九五四年にビキニで行われた水爆実験により、日本のマダガスカル第五福竜丸が灰をかぶり、全員被爆、一人は死亡で明確。核兵器は国と国の間の力を競うシンボルでしたが、今やもうその時は過ぎ去り、全人類が手をつないで、核の脅威と対峙しなければならぬ時代が来たのではないのでしょうか。それに対して、あなたはどうお考えですか。」議場に拍手が起った。それは多くの人が同じ考えを持っている事を示した。今、第五福竜丸の意味は大きい。

(日本キリスト教協議会核問題委員会委員長・平和協会評議員)



来館者の声から

こんにちは。私達は、社会科見学で第五福竜丸を見学するために、この船について、たくさん勉強しました。かく実験のおもしろさや放射能を受けて今でも苦しんでいる人達がいらっしやる事を知りま

盛大に「新春たこあげ大会」

平和協会主催

一月十五日、夢の島公園グラウンドで、平和協会主催・東京都後援で第15回新春たこあげ大会がひらかれました。江東区の小中学生をはじめ約二百人が参加し、思い思いのたこを第五福竜丸展示館の屋根高くあげ、平和への願いを新たにしました。今年も江東区北砂小学校の六年生約九〇人が二百枚近い連だこを一斉にあげて一等賞になったほか、第五福竜丸の型をしたたこが新宿の戸山小学校の絵画グループの手であがり拍手かっさいでした。焼津のマグロ風も少あがりでした。

した。そこで私達クラス全員で、千羽づるを折ることや平和運動のためのぼ金をしたりしました。この袋の中に入っている金額は、四千九百六十五円という、少しの額ですが、平和運動のために役立てていただけたらと思っております(埼玉県三郷市立前間小学校六年二組一同)。

ので見に来ました。模型の第五福竜丸と本物の第五福竜丸が一番、印象に残った。来館したのは、これで六回です。また、来たいです(北区 長田文寿)。

▼最近の新聞で、椎名誠の「何もせぬ尊さ」に、同感した。コンクリートの公園を作るため、武蔵野の風情が残る懐かしい原っぱが消えたことを嘆いたその記事は、「空日」「無」の尊さを訴えていた。人工の埋め立て地が、「何もせぬ尊さ」とはおかしいが、今の夢の島の良さもそれではないかと思っ

「夢の島から、太平洋へ、世界に」

第五福竜丸の願いを届けるでしょう

「とかがかれた表彰状、上野誠さんの鳩を浮き彫りにしたメダル、たくさんさんの出版社から贈られた賞品を受け取って、みんなで展示館を見学しました。



いいぞ！上がった！何等賞かな？

日曜日にもたこあげ大会
一月二十五日の日曜日、展示館前広場でまたたこあげが行なわれ

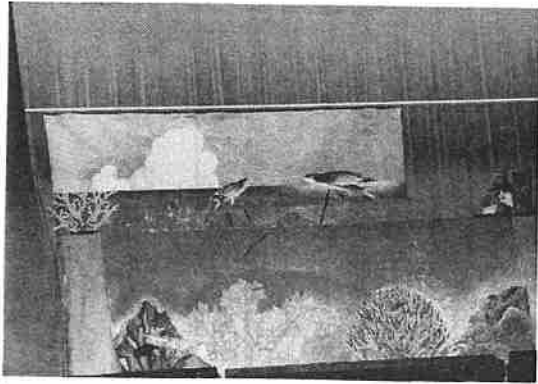
ました。原水爆禁止東京市民会議がよびかけた催しでおよそ五十人が参加、竹ひご三本、ビニールで作った即製のたこはよくあがり、核実験反対などを訴えました。

編集後記

「空白」「無」の良さを残しておいてほしいと思う。タウン誌「深川」(No.54)の、町めぐりシリーズで夢の島の姿が紹介されている▼今年も期待通り、北砂小学校が優勝。昨年に続き、審査委員として活躍した江戸川の畔上先生の大きな笑顔と折り紙(昨年はパンダ、今年はずき)は、凧上げ大会の名物になりそうだ(は)。

●100万人参観者運動を！

87年1月	来館者数	8,702名
通算1カ月	平均来館者数	5,635名
当月1日	平均来館者数	362名
通算来館者数		721,291名



我が校の社会科学部は、この二年間ビキニ水爆被災事件の学習・調査を続けています。被災船の元乗組員の一人一人に、聞き取り調査をする中で、核廃絶への願人形劇「トビウオの坊やとまっしろぶね」の舞台

文化祭・高校生集会で大好評 人形劇『トビウオの坊やとまっしろぶね』

——「ビキニ」を学び豊かに生長する高校生たち

西村雅人 (高知県立宿毛高校大月分校教諭)

いと、海に生きる人々への共感をたかめて来ました。そして自分達の思いを伝えるため、人形劇『トビウオの坊やとまっしろぶね』を製作しました。ビキニ事件を題材とした二つの絵本『トビウオのぼうやはびょうきです』『おういまっしろぶね』をもとに、高校生が脚本を書き、人形を作りました。作品の内容は、ビキニ環礁の近くに住む魚たちと、第五福竜丸をはじめとした多くの船が死の灰を浴び被ばくしてしまふというもので、「かけがえのない地球が減ってしまわないように私たちが訴えます。ノーマア・ヒロシマ。ノーマア・ナガサキ。ノーマア・ビキニ。ノーマア・ヒバクシャ」としめくくってあります。初演は文化祭で行われ、好評を博し、幡多地区高校生部落問題学習集会(昨年十一月二十六日)で再演されました。ほとんどの参加



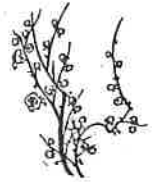
チリ紙の「死の灰」をものともせず熱演する高校生たち。者から「感動した」「心に残っている」との感想が寄せられました。中には「大月分校の人形劇が見たくて、この集會に参加した」と言う人もいたほどです。

何よりもうれしいのは、学習や様々な活動を通して生徒がのびのびと成長してくれたことです。学校序列を乗り越え、人間的連帯を回復する高校生たちの輪の広がりは、平和と軍縮への私たち教師の展望を、深部から支えてくれるものとなっています。

展示館出入口工事はじまる
一月十六日から展示館の工事がまた始まりました。今回は、周辺の整備と出入口の改善を主にし、現在の出入口の外側に三メートル四方の踊り場を作り二重の扉とし、東西に入口を設けて潮風や雨の吹き込みを防ぐものです。沈下箇所も盛土し、タイル敷きの歩道、や植込みも作られ、三月末完成の予定です。
第96回理事会と評議員会開く
一月十九日、学生会館で協会の理事会と評議員会がひらかれました。理事会では三・一ビキニ事件記念集會の内容などが決定されました。理事の補充についても審議されました。また二月に高知でひらかれるビキニ水爆実験被災シンポジウムに激励電を打つことになりました。評議員会では①協会の活動について②理事・評議員の補充についての会長諮問に有意義な提言がたくさんいただきました。評議員会の参加者は次の人々でした。
三宅泰雄、川崎昭一郎、斎藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇(以上理事会から)
内山尚三、小笠原英三郎、草野信男、関屋綾子、福島要一、三井周、吉田嘉清。

平和随想 (一)

三宅泰雄



第五福竜丸がアメリカの水爆実験の結果、ビキニ海域で遭難したのは一九五四年三月一日のことです。この大事件は三月十六日付の読売新聞紙上で報道され、たちまち世界中に知れわたりました。世界の人々は、原水爆のおそろしさに、初めて気づいたのです。当然のことながら、原爆により大災害をこうむった日本国民の間に、はげしい怒りと抗議の声がまきおこりました。東京・杉並の婦人による運動が、急速に共感の輪をひろげ、はやくも八月八日には原水爆禁止署名運動全国協議会が結成されました。

水爆実験による被害は、第五福竜丸乗組員の放射能症、久保山さんの死、放射能マグロの大量投棄だけではありませんでした。爆発による気圧の振動と異常潮位(ツナミ)が各国で観測されました。放射能調査のために派遣された俊鶴丸は、ビキニから千キロ以上もはなれた海域でさえ、甚だしく放射能で汚染されていることを確認しました。まもなく、つよい放射能雨が世界中にふり始めました。この重大な事態に直面した科学者は、自分たちの仲間が産み出した原水爆の、想像を絶する威力に驚くとともに、その責任を痛感しないではいられません。その一人、イギリスのバートランド・ラッセル卿(一八七二—一九七〇)は、アインシュタイン博士に相談し、原水爆禁止のための会議を開くよう、世界の科学者に呼びかける計画をたてました。アインシュタイン(一八七五—一九五五)はすでに健康を害していましたが、提案に賛成し、ラッセルの宣言草案に署名をしました。彼の死(一九五五・四・十八)の二日前のことです。

哲学者・数学者のラッセルは貴族の生まれ、祖父は首相までつとめた人でした。しかしラッセルは若いころから、権力に対しつよい反感を抱き、第一次世界大戦のさいには、公然と反戦の意志を表明したため、ケンブリッジ大学を追われ、さらに半年間も牢獄に繋がれました。その後は、学問と自由と平等のために専念し、多くの労作をのこしました。一九五〇年には「西欧哲学史」その他に対しノーベル文学賞が授与されています。晩年にはベトナム戦争に反対し、米政府を裁くための国際法廷を開くことを提唱しています。アインシュタインは第二次世界大戦後は世界連邦政府の提唱、アメリカの水爆開発計画への反対など、平和主義者としても活躍しています。しかし私たちは、彼がシーボーグ、ウイグナー(ヨーロッパからの亡命科学者たち)らの懇請を入れて、ルーズヴェルト大統領に原爆の開発を促がす手紙を出したことを忘れてはなりません。これが引金となってマンハッタン原爆製造計画が発足し、ひいては広島・長崎の悲劇をもたらしたのです。アインシュタイン自身はマンハッタン計画には関与しませんでした。戦後の平和問題への献身は、彼自身の犯した過ちへの悔悟の念からではなかったらうか、と私には思われます。

ラッセル・アインシュタイン宣言は同年七月九日にロンドンで発表され、湯川博士をふくむ十一名の科学者が署名しています。宣言では原水爆が人類の絶滅をもたらす危険性について警告し、原因となる戦争そのものの廃絶を訴え、次のように決議しました。
決議 世界の科学者と民衆が、つぎの決議に賛同するよう、この会議を招集する。
「将来の世界戦争で、核兵器が用いられることは必至であり、人類の生存をおびやかしていることから、世界の諸政府が、世界戦争では、その目的が達せられぬことを悟り、公にも、それを認めることを勧告する。また、それゆえ、政府間のあらゆる紛争に対しては平和的な解決手段を見出すよう勧告する」
この決議にもとづき、一九五七年七月に、カナダの大西洋岸・ノヴァ・スコシア州の小さい町、パグウォッシュで、「科学と世界問題」の第一回会議が開かれました。(「平和随想」は今月号より連載されます)